

1 運動部活動の現状と課題

(1) 適切な運動部活動の運営

運動部の活動は、学校教育の一環として行われ、スポーツ等に興味と関心をもつ児童生徒が、教員（顧問）の指導のもとに、主に放課後などにおいて自主的、自発的に運動やスポーツを行うものであり、生涯にわたって親しむことのできるスポーツを見いだす格好の機会であるとともに、体力の向上や健康の増進にも効果的な活動である。

このようなことから、運動部活動の指導に当たっては、適切な指導のもとに、自主的、自発的な活動が展開されるよう配慮することが大切である。また、児童生徒が豊かな生活を送りながら人格的成長を目指し、行き過ぎた勝利至上主義に偏ることのないよう留意する必要がある。

そのためには、従前行われてきた運動部活動に対する意識を改革し、ガイドラインに則り休養日や活動時間を設定し、児童生徒の生活や成長と運動部活動とのバランスをとることが重要である。

また、家庭や地域社会とともに児童生徒を育成する開かれた学校となるために、必要に応じて部活動指導員等の外部指導者を活用するなど、児童生徒の能力や適性、興味・関心等に応じた活動が行われるよう指導することが必要である。

併せて、児童生徒を取り巻くスポーツ環境については、学校と地域が一体となって、持続可能な体制を構築していくことが重要である。

ア 共通理解と指導体制の確立

各学校においては、運動部活動のねらいと学校の実態を踏まえ、自校の運動部活動の運営について全職員で話し合い、以下のとおり、共通理解を図ることが必要である。

- 運動部活動が学校教育活動の一環であることの位置付けを確認し、学校全体としての指導体制を確立する。
- 管理職や直接その活動に携わる指導者による運動部顧問会議が、十分機能を発揮するよう配慮する。
- 運動部顧問会議では、活動目標・計画・場所・時間・経費・広報活動・緊急時連絡体制・研修会等を検討し、児童生徒・各委員会・保護者・他の教員等との連絡調整に当たる。
- 児童生徒の自主的な運営を高めていくために、リーダーを育成する。
- 各部の代表によるキャプテン会議等を定期的で開催するなど、情報交換・問題点・悩み等について話し合う機会を設ける。
- 保護者と顧問の共通理解を図る手立てや機会を設ける。

イ 事故防止対策の確立

運動部活動においては、参加する児童生徒の能力や目標に応じて、より高い水準の技能や記録を目指す中で、思わぬ事故が発生する場合がある。活動計画がよりよい成果を上げられるよう実践するためにも、児童生徒の事故防止に対する態度の育成を目指すとともに、日常的な施設・設備の点検や指導内容の見直しをするなどし、事故を未然に防ぐことは極めて重要なことである。しかし、万が一、事故が発生した場合には、迅速かつ適切な対応が必要となる。

また、指導の過程における暴言・体罰やハラスメント等の行為は絶対にあってはならないことである。

ウ 児童生徒の生活全体からみて調和のとれた活動

児童生徒が学校・家庭・地域で運動以外の交流をもつことや、運動部以外の仲間と友情を深める機会をもつことは、豊かな生活を送るために大切なことである。また、学業との両立は極めて重要であることから、運動部活動一辺倒の生活にならないよう配慮しなければならない。

(2) 中学校・高等学校における運動部活動の現状と課題

急激に変化する社会情勢の中、生徒の価値観や個性、運動に対するニーズはますます多様化するとともに、生徒数の減少や顧問の高齢化に伴い運動部活動の運営に変化が出てきている。

そこで、部活動指導員等、外部指導者の導入や運営方法等これからの運動部活動の在り方を各学校で検討し、学校、地域、生徒の実態に即した運動部活動の運営ができるよう留意する必要がある、複数校

合同部活動や地域クラブ活動への移行等，柔軟な運営が望まれる。

ア 部活動の状況について

過去数年の加入率の推移は，右表のとおりである。中学校の加入率は，平成 17 年度から低下傾向が続いたが，平成 22 年度より一端増加し，平成 29 年度までほぼ 65%前後でほぼ横ばい傾向であった。平成 30 年度以降は少しずつ低下している。高等学校では，平成 17 年度から加入率が 40%を超えたが，ここ数年間での低下傾向が顕著である。生徒の体力低下の歯止めとして，今後より一層魅力あるスポーツ環境づくりが期待される。

【中・高等学校運動部活動加入率の推移】 単位%

	中学校			高等学校		
	男子	女子	全体	男子	女子	全体
H28	75.8	55.0	65.7	60.7	29.4	45.3
H29	73.7	55.1	64.6	60.0	29.2	45.0
H30	73.5	51.3	62.7	59.2	27.8	43.8
R1	71.3	53.8	62.8	55.2	26.3	41.0
R2	68.9	52.5	60.9	55.5	26.2	41.1
R3	69.4	53.7	61.7	55.9	26.1	41.2
R4	67.8	52.3	60.2	52.6	26.2	39.6

※高等学校は全日制の加入率

【運動部活動の活動目的】 高等学校（全日制のみ）

活動目的	割合
能力を最大限に発揮し，記録に挑戦したり大会での好成績	45.1%
団体活動を通じ仲間との交流を深め幅広い人間形成	27.5%
健康の保持増進，体力向上，生涯にわたる豊かなスポーツライフ	21.9%
母校や所属への帰属意識高揚，団体活動への貢献	3.9%

（令和 4 年度高等学校体育連盟の活動状況調査より）

高等学校の部活動の活動目的は左表のとおりである。競技力の向上や人間形成を目指していることが現れている。

【週あたりの活動日数及び 1 日の活動時間】 高等学校（全日制のみ）

		平均
活動日数	(シーズン中)	5.3 日/週
	(シーズンオフ)	5.1 日/週
活動時間 (シーズン中)	(平日)	2.3 時間/日
	(土曜日)	3.2 時間/日
	(日曜日)	2.7 時間/日

（令和 4 年度高等学校体育連盟の活動状況調査より）

活動状況は左表のとおりである。競技の特性により，練習時間などの活動状況は異なるが，指導者は，短時間で効率的で効果的な活動を目指して指導することが必要である。

【休養日の設定状況】 高等学校（全日制のみ）

右表は，休養日の設定状況である。約 8 割の部活動で「ほぼ年間を通して毎週同じ曜日をあてている」としている。一方，「年末年始や定期考査等を除き特に定まっていない」が約 2.7%あり，生徒の勉学，家庭生活，健康などに配慮する必要があることから，計画的な休養日の設定が望ましい。

活動目的	割合
ほぼ年間を通して毎週同じ曜日をあてている	77.1%
たとえば 4 日間活動で 1 日休養というようなサイクル方式である	3.9%
施設や行事等により不定期に設定せざるを得ない	5.7%
部員と相談しながら休養日を設定している	8.4%
年末年始や定期考査等を除き，特に定まっていない	2.7%
学校として全ての部活動が同一の日に休養日を設定している	0.3%

（令和 4 年度高等学校体育連盟の活動状況調査より）

イ 指導者について

【顧問の平均年齢】

平均年齢
41.1 才

令和4年度の高等学校運動部活動顧問の平均年齢は、左表のとおりである。

(令和4年度高等学校体育連盟の活動状況調査より)

【高等学校運動部顧問の専門性】

	割合
競技経験が有り，専門的で高度な技術指導が可能	30.0%
競技経験が有り，技術指導が可能	24.0%
競技経験は無いが，多少の技術指導が可能	17.9%
競技経験が無く，技術指導は不可能	27.8%

(令和4年度高等学校体育連盟の活動状況調査より)

高等学校における顧問の専門性は上の表のとおりである。

競技経験がない顧問の割合は約46%であり、約28%の顧問が「競技経験がなく、技術指導は不可能」と回答し、技術指導ができないことを示している。

指導者としての資質の向上に努めるため、県教育委員会・市町村教育委員会・関係競技団体等主催の各種講習会等に自ら進んで参加するとともに、文献等にも広く目を向けることが望まれる。

県教育委員会では、「中・高等学校運動部活動指導者講習会」を開催し、主に、教科体育担当教員以外の指導者（指導経験の比較的少ない者）の指導力の向上を目指している。

ウ 部活動中における事故防止について

学校（指導者）は、児童生徒の事故防止の態度を育成するとともに、活動場所の安全対策や練習方法の検討・点検など未然に防止できる部分への即効性（安全指導・安全管理の両面）のある対策を講じ、事故の発生の防止に努めることが重要である。

また、指導者は、スポーツ傷害（「スポーツ外傷」と「スポーツ障害」の両方を含む）についても、常に新しい情報を吸収し、指導場面において役立てることが大切である。

特に、スポーツ障害については「スポーツトレーニングを継続することにより、軽度な外力が反復作用することによって生じた発生原因の不明確なもの」であるため、生徒・指導者・医師の三者が一体となった取組が必要である。

高等学校の運動部活動の安全対策の一層の充実という観点から、下表のとおり県高体連への委託事業として安全技術講習会を開催している。この他、競技団体主催の講習会等の機会を利用し、事故防止に努めることが必要である。

【千葉県高等学校安全技術講習会開催状況】

	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4
登山	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラグビー			◎	◎			◎	◎			◎	◎	
体操	◎			◎	◎			◎	◎			◎	◎
柔道	◎	◎			◎	◎			◎	◎			◎
レスリング		◎	◎			◎	◎			◎	※		
ボクシング		◎	◎			◎	◎			◎	※		
サッカー	◎			◎	◎			◎	◎			◎	◎

◎・・・千葉県教育委員会から委託 ○・・・高体連主催 ※・・・新型コロナウイルスにより中止

エ 運営上の課題及び工夫・改善策について

令和4年度高等学校体育連盟実態調査の中で、顧問が回答した部活動経営上・指導上の課題は次の各表のとおりである。

【部活動経営上・指導上の課題】では、競技の性質上課題の差異は認められるが、部員数確保に関する課題が50%を越す結果となった。以下、施設や競技用具に関する課題や、専門的な技術指導に関する課題が、例年同様高いポイントとなっている。

【部活動経営上・指導上の課題】 (複数回答可)

諸課題	割合
部員数確保に関する課題	58.8%
施設や競技用具に関する課題	40.0%
専門的な技術指導に関する課題	28.8%
部費の使途や管理など活動経費に関する課題	10.1%
休日の活動や引率業務に関する課題	27.8%
けがや事故対応といった安全管理に関する課題	18.3%
部員間や顧問間の人間関係に関する課題	9.1%
他の分掌との兼ね合いに関する課題	25.0%
競技団体等の外部組織に関する課題	7.9%

また、中学校では、従来から下記の点が問題となっている。

- 顧問不足・顧問年齢の二極化
- 顧問の指導力不足
- 顧問間の共通理解不足
- 計画性の欠如
- 少子化による部員不足
- 保護者の要望
(時間短縮、休日の活動、塾への配慮等)

以上のことから、中学校及び高等学校の運動部活動運営上の課題及び工夫・改善策については、次のとおりまとめることができる。

中学校	高等学校
<ul style="list-style-type: none"> ○顧問会議の定例化（決まりの徹底，トレーニング方法の研修，情報交換等） ○部活動部長会議の定例化（教師，生徒の参加） ○体育施設使用方法の工夫 ○部活動運営計画の作成 ○適切な活動時間と休養日の設定 ○部活動保護者説明会の実施と内容の充実 ○外部指導者の活用と活動実態の把握 ○複数校合同部活動の推進 ○体罰根絶に向けた研修の実施や職場の共通理解 ○合理的で効率的・効果的な練習方法の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ○顧問会議の定例化 ○保護者・地域との連携 ○体育施設設備の安全点検と使用方法の工夫 ○地域の外部人材指導者の活用 ○運動部活動指導者講習会への積極的参加 ○部活動運営計画の作成 ○適切な活動時間と休養日の設定 ○「体罰によらない指導の在り方の研修」を実施し，「体罰根絶宣言」を周知 ○合理的で効率的・効果的な練習方法の研究

「生涯にわたる豊かなスポーツライフ」が強く叫ばれている今日、教科体育の指導はもとより、運動部活動においてもこの視野に立った指導がなされることが重要である。

生涯にわたって運動に親しみ、健康で明るく豊かな生活を送るための基盤として、「運動・スポーツが好きな生徒」「運動・スポーツの得意な生徒」の育成を目指し、小・中・高への進行に伴い、一人でも多くの児童生徒が運動部活動や地域クラブでの活動に積極的に取り組むことができるよう、一層の充実と適正な運営が望まれる。